

# 令和3年度 行政評価調書

## ■ 施策の概要

(第7次総合計画 基本計画 P.108～110)

まちづくり 6つのテーマ	テーマ3 強味を生かした産業振興によるにぎわいのまち(産業振興)		
施策名	3-6 港湾		
所管部	産業港湾部	関係部	なし
この施策の 目指すべき姿と その展開方向	<p>(第7次総合計画 基本構想 P.39)</p> <p>小樽港の歴史、地理的特性、関連産業の集積などを生かした活力のある魅力的な港湾を目指します。          このため、中国をはじめとする東アジア諸国やロシアなどの対岸諸国や北米地域などの貿易の拡大を進めるとともに、生産年齢の人口減少に伴い物流事業者で深刻化している高齢化による労働力不足等の国内物流体系の変化に対し、長距離フェリーの利用促進や物流機能の集約化などにより、効率的で持続可能な物流体系の構築に努めます。          また、クルーズ客船の寄港促進を図るとともに、物流機能と調和を図りながら、歴史や文化、水辺を生かした観光・交流空間の形成に努めます。          さらに、既存施設の有効活用や老朽化対策、防災対策を進め、安全で安心して利用できる港湾機能の強化に努めます。          石狩湾新港については、背後地域への企業立地を推進し、同地域を更に活性化するとともに、小樽港とそれぞれの特性を生かしながら連携を強化し、両港が北海道日本海側の拠点港として、発展するよう努めます。</p>		
市民アンケート 指標	港に魅力や活力を感じている市民の割合	基準値	目標値
		29.6%	基準値より増

## ■ 施策の内容(小施策)

(第7次総合計画 基本計画 P.108～110)

小施策 及び 指標	(1) 物流の活性化		基準値	目標値
	指標	小樽港の年間取扱貨物量	1,307万トン	基準値より増
	(2) 「みなと観光」拠点の創出		基準値	目標値
	指標	クルーズ船の道内寄港数における小樽港の割合	20.79%	30%
	(3) 安全・安心対策の推進		基準値	目標値
	指標	老朽化対策を行う岸壁数の割合	33.3%	50.0%
	(4) 石狩湾新港との連携		基準値	目標値
	指標	両港のタグボート相互利用等のポートサービス連携により寄港した船舶の隻数	89隻	基準値より増

# 令和3年度 行政評価調書

## ■施策の評価(一次評価)

まちづくり 6つのテーマ	テーマ3 強味を生かした産業振興によるにぎわいのまち(産業振興)					
施策名	3-6 港湾					
所管部	産業港湾部	関係部	なし			
市民アンケート 指標	港に魅力や活力を感じている市民の割合	基準値	令和3年度	令和5年度	目標値	
		29.6%	34.6%		基準値より増	
市民アンケート 指標の推移	◎	◎:指標の推移は順調 △:指標の推移は順調でない -:判定不能(実績値なし)				
各小施策の 指標の推移	指標		基準値	実績値	推移	目標値
	(1)	小樽港の年間取扱貨物量	1,307万トン	1,196万トン	△	基準値より増
	(2)	クルーズ船の道内寄港数における小樽港の割合	20.79%	0.00%	△	30%
	(3)	老朽化対策を行う岸壁数の割合	33.3%	33.3%	△	50.0%
	(4)	両港のタグボート相互利用等のボートサービス連携により寄港した船舶の隻数	89隻	99隻	◎	基準値より増
指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例:実績値≥標準値⇒◎、実績値<標準値⇒△)						
【一次評価】 達成度の向上 等へ向けた今後 の方向性	B-1	(指標推移) A:各指標の推移は順調 B:各指標の推移は概ね順調 C:各指標の推移はあまり順調でない D:各指標の推移は順調でない	(改善内容等) 1:主な予算事業等をそのまま継続して推進する 2:主な予算事業等を改善しながら推進する 3:主な予算事業等の内容の全面的な見直しを行う			
上記特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施策に対する市民アンケート指標や、小施策(3)(4)については順調であるが、新型コロナウイルス感染症の影響などにより(1)(2)については不調である。</li> <li>・小施策(2)については新型コロナウイルス感染症の影響により、クルーズ船の寄港がない状況が続いているが、今後の寄港予約は多数受けており、クルーズ船の寄港促進に向けたポートセールスを強化していくとともに、クルーズ船受入機能の拡充、歴史や文化、水辺を生かしたにぎわい空間を創出する第3号ふ頭及び周辺地域の再開発を推進していく。</li> <li>・小施策(3)については老朽化した色内ふ頭や第3号ふ頭(予算事業等は(2)「みなと」観光拠点の創出に記載)の港湾施設の改良事業等を進めており、現時点で指標は基準値から増加していないものの、岸壁工事の完了をもって増加することとなるため、計画どおり進捗している。</li> </ul>					

## ■施策の評価(二次評価)

【二次評価】 達成度の向上 等へ向けた今後 の方向性	B-1	(指標推移) A:各指標の推移は順調 B:各指標の推移は概ね順調 C:各指標の推移はあまり順調でない D:各指標の推移は順調でない	(改善内容等) 1:主な予算事業等をそのまま継続して推進する 2:主な予算事業等を改善しながら推進する 3:主な予算事業等の内容の全面的な見直しを行う		
上記特記事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各指標の推移等は、一次評価のとおりと考える。</li> <li>○小樽港貿易振興協議会と連携し、新規航路の開拓に取り組むこと。</li> <li>○クルーズ船の受入環境の整備や港湾の老朽化対策を着実に進めるとともに、港の整備状況や、観光の魅力をアピールし、新型コロナ収束後を見据えたポートセールスに取り組むこと。</li> <li>○第3号ふ頭及び周辺地域の再開発を推進するとともに、「みなとオアシス」登録に向けた取組を進めること。</li> </ul>				

# 令和3年度 行政評価調書(小施策検討シート)

## (1)物流の活性化

(第7次総合計画 基本計画 P.109)

指標	指標名		指標の基準年		基準値	目標値		
		小樽港の年間取扱貨物量		平成30年		1,307万トン	基準値より増	
	年度ごとの実績値		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
			1,295万トン	1,196万トン				
指標推移	△	◎ :指標の推移は順調 △ :指標の推移は順調でない - :判定不能(実績値なし)	指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例:実績値≥標準値⇒◎、実績値<標準値⇒△)					
主な取組	<p>★小樽港の利用促進に向けたポートセールスの強化(産業港湾部港湾室)</p> <p>○中国定期コンテナ航路の拡充強化(産業港湾部港湾室)</p> <p>○東アジア諸国やロシアなどの対岸諸国や北米地域などとの貿易促進(産業港湾部港湾室)</p> <p>○長距離フェリー航路の利用活性化(産業港湾部港湾室)</p> <p>○物流機能の集約化・更新による効率的な港湾空間の形成(産業港湾部港湾室)</p> <p>○ポートサービスの向上(産業港湾部港湾室)</p>							
主な 予算事業等	① 名称(事業番号)		② 前年度決算(見込)額		③ 担当			
	④ 目的と概要							
	⑤ 事業等実施状況							
	1	① 小樽港貿易振興協議会負担金(1084)		② 750 千円		③ 産業港湾部港湾室		
		④ 小樽港の利用を促進することにより、港湾産業の振興に寄与し、小樽経済の発展を図るため、官民一体となり商社、荷主等への貨物誘致活動や情報収集を行うほか、関連企業訪問等の活動を行う。						
		⑤ 小樽港セミナー(東京・札幌)参加者数 平成30年度 181名 令和元年度 182名 令和2年度 中止 小樽港貿易振興懇親会(東京・札幌)参加者数 平成30年度 275名 令和元年度 266名 令和2年度 中止						
	2	① 小樽港物流促進プロジェクト事業費(2844)		② 183 千円		③ 産業港湾部港湾室		
		④ 小樽港の主要な航路等を輪移出入に活用するため、国内外の荷主等からの情報収集を図りつつ、関連する民間事業者等と連携して小樽港のPRやポートセールスを行う。						
		⑤ 海外訪問 平成30年度 ロシア(サハリン州)、中国(上海) 令和元年度 ロシア(沿海地域) 令和2年度 中止						
	3	① 勝納ふ頭荷さばき地改良事業費(3579)		② 2,900 千円		③ 産業港湾部港湾室		
		④ フェリー航路の車両が使用している勝納ふ頭荷さばき地において、重車両に対応できるよう舗装の強度を高めるため、改良工事を行う。						
		⑤ 補助脚プレート設置 平成30年度 14箇所 令和元年度 28箇所 令和2年度 10箇所						
	4	① 船舶給水費直接給水作業委託料(1090)		② 2,496 千円		③ 産業港湾部港湾室		
		④ 港湾利用者の利便性の向上を図るため、小樽港で船舶給水ができるよう、業務委託を行う。						
		⑤ 給水作業量 平成30年度 18,355m <sup>3</sup> 令和元年度 19,175m <sup>3</sup> 令和2年度 7,579m <sup>3</sup>						
5	① ひき船関係経費(1525)		② 63,533 千円		③ 産業港湾部港湾室			
	④ 港湾利用者の利便性の向上を図るため、小樽港でタグボートが利用できるよう、タグボートを配置するとともに、運航等業務委託を行う。							
	⑤ 作業等回数 平成30年度 460回 令和元年度 503回 令和2年度 362回							
6	① 多目的荷役機械延命化対策事業(3638、2973)		② 84,500 千円		③ 産業港湾部港湾室			
	④ 突発的な故障が多発する多目的荷役機械の、詳細点検を実施の上、現状の性能を確保し機能の延命化対策を行う。							
	⑤ 令和元年度 横行レール補修、電気系統・発電機更新、令和2年度 走行部・吊上部・各電動機更新							
指標推移の要因等	<p>・新型コロナウイルス感染症の拡大による、飲食店の休業などの影響により、取扱貨物量が減少している。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響等により、セミナーの開催などのポートセールスを控えている。</p>							
指標推移への対応	1	<p>1:各事業をこのまま継続して推進する</p> <p>2:予算事業等を改善しながら推進する</p> <p>3:予算事業等の内容の全面的な見直しを行う</p>						
対応の内容	<p>&lt;対応の内容を箇条書きで記入&gt;</p> <p>1 取扱貨物量の増加を目指し、引き続き官民連携しながらポートセールスを実施する。</p> <p>2 船舶給水やタグ作業など港湾利用者にポートサービスを提供し、利便性を向上させ、小樽港の利用を促進する。</p>							

# 令和3年度 行政評価調書(小施策検討シート)

## (2)「みなと観光」拠点の創出

(第7次総合計画 基本計画 P.109)

指標	指標名		指標の基準年		基準値	目標値	
		クルーズ船の道内寄港数における小樽港の割合		平成30年		20.79%	30%
	年度ごとの実績値		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
			22.31%	0.00%			
指標推移	△	◎ : 指標の推移は順調 △ : 指標の推移は順調でない - : 判定不能(実績値なし)	指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例: 実績値 ≥ 標準値 ⇒ ◎、実績値 < 標準値 ⇒ △)				
主な取組	<p>★クルーズ船の寄港促進に向けたポートセールスの強化(産業港湾部港湾室)</p> <p>★クルーズ船受入機能の拡充、歴史や文化、水辺を生かしたにぎわい空間を創出する第3号ふ頭及び周辺地域の再開発の推進(産業港湾部港湾室)</p> <p>○第3号ふ頭及び周辺地域を核としたみなとオアシスの登録(産業港湾部港湾室)</p>						
主な 予算事業等	① 名称(事業番号)		② 前年度決算(見込)額		③ 担当		
	④ 目的と概要						
	⑤ 事業等実施状況						
	1	① 環日本海クルーズ推進事業費(1077)		② 317 千円		③ 産業港湾部港湾室	
		④ 日本海側クルーズの寄港促進とブランド化を図るため、小樽港、秋田県3港、伏木富山港、京都舞鶴港、境港の5地域が連携、共同で誘致活動を行う。					
		⑤ 外国船社幹部招請数 平成30年度 2回 令和元年度 2回 令和2年度 0回					
	2	① 小樽港クルーズ推進事業費(1894)		② 1,704 千円		③ 産業港湾部港湾室	
		④ 官民協同の協議会により、クルーズ船の誘致活動や受入体制の強化に取組み、本市と周辺地域の経済振興・発展を図る。					
		⑤ ・寄港回数(受入対応) 平成30年度 21回 令和元年度 29回 令和2年度 0回 ・企業訪問数 平成30年度 10回 令和元年度 13回 令和2年度 3回					
	3	① 駐車場等基盤整備事業費(3595)		② 9,727 千円		③ 産業港湾部港湾室	
		④ クルーズ旅客の移動の円滑化や安全性の向上を図るため、第3号ふ頭にクルーズ旅客送迎等で利用する大型バス・タクシー等の駐車場の整備を行う。					
		⑤ 令和2年度 実施設計1式					
	4	① 第3号ふ頭を核とした魅力づくり連絡会議		② 予算なし 千円		③ 産業港湾部港湾室	
		④ 第3号ふ頭及び周辺地区における今後の「賑わい空間」創出のため、経済・観光団体、国、市で構成する「第3号ふ頭を核とした魅力づくり連絡会議」において、「みなとオアシス」の登録に向け、引き続き意見交換を行っていく。					
		⑤ 令和元年度 5回、令和2年度 5回					
5	① 国直轄工事負担金第3号ふ頭岸壁改良事業費(2345)		② 353,925 千円		③ 産業港湾部港湾室		
	④ 老朽化した岸壁の機能回復を図るため、第3号ふ頭の岸壁の改良を行う。						
	⑤ 平成30年度 上部工・付属工L=45m、陸上地盤改良L=120m、海上地盤改良L=32m、令和元年度 上部・付属工L=59m、陸上地盤改良L=74m、海上地盤改良L=42m、令和2年度 本体工L=82m、裏込工L=68m						
6	① 国直轄工事負担金第3号ふ頭泊地改良事業費(2970)		② 72,150 千円		③ 産業港湾部港湾室		
	④ 泊地のしゅんせつを行い、水深を確保することにより、大型客船の接岸を可能とするため整備する。						
	⑤ 平成30年度 土砂V=11,800m <sup>3</sup> 、令和元年度 土砂V=1,600m <sup>3</sup> 、令和2年度 土砂V=45,000m <sup>3</sup>						
7	① クルーズターミナル整備事業(3594)		② 0 千円		③ 産業港湾部港湾室		
	④ 国直轄事業の第3号ふ頭岸壁改良事業で改良実施中である岸壁背後の既存貨物上屋(市営上屋33号)の一部を改良し、クルーズターミナル機能整備を行い、クルーズ旅客の乗下船手続の円滑化を図る。						
	⑤ 令和2年度は、新型コロナウイルスの影響で実施できなかったが、令和3年度実施。						
指標推移の要因等	<p>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、小樽港へのクルーズ船の寄港が全てキャンセルとなった。(※北海道内へのクルーズ船の寄港も全てキャンセル)</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、企業訪問等の誘致活動を控えている。</p>						
指標推移への対応	1	<p>1: 各事業をこのまま継続して推進する</p> <p>2: 予算事業等を改善しながら推進する</p> <p>3: 予算事業等の内容の全面的な見直しを行う</p>					
対応の内容	<p>&lt; 対応の内容を箇条書きで記入 &gt;</p> <p>1 新型コロナウイルスの感染拡大の影響で寄港中止の状況が続いているが、クルーズ船の寄港打診は例年通り多数受けていたため、コロナ収束後を見据えて引き続き船社訪問等、関係企業への誘致活動を継続する。</p> <p>2 第3号ふ頭及び周辺開発事業については、港湾施設の改良事業により施設の長寿命化が図られるほか、大型客船の接岸も可能となるため、関係機関と連携しながら事業の推進を図る。</p>						

# 令和3年度 行政評価調書(小施策検討シート)

## (3)安全・安心対策の推進

(第7次総合計画 基本計画 P.109)

指標	指標名		指標の基準年		基準値	目標値	
		老朽化対策を行う岸壁数の割合		平成30年		33.3%	50.0%
指標推移	△	◎ : 指標の推移は順調 △ : 指標の推移は順調でない - : 判定不能(実績値なし)	年度ごとの実績値		令和元年度	令和2年度	
			33.3%	33.3%			
指標推移			指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例: 実績値 ≥ 標準値 → ◎、実績値 < 標準値 → △)				
主な取組	<p>★計画的な老朽化対策による港湾機能の確保(産業港湾部港湾室)</p> <p>○災害時における物流機能の確保、防災対策の推進(産業港湾部港湾室)</p> <p>○港湾施設の適正な維持管理による安全性の確保(産業港湾部港湾室)</p>						
主な 予算事業等	① 名称(事業番号)		② 前年度決算(見込)額		③ 担当		
	④ 目的と概要						
	⑤ 事業等実施状況						
	1	① 色内ふ頭老朽化対策事業費(3164)		② 203,420 千円		③ 産業港湾部港湾室	
		④ 老朽化した護岸の機能回復及び延命化のため、護岸改良工事を行う。					
		⑤ 平成30年度 実施設計業務 令和元年度 防食340m、地盤改良36m 令和2年度 本体工60m、陸上地盤改良170m					
	2	① 港内泊地しゅんせつ事業費(1884)		② 3,806 千円		③ 産業港湾部港湾室	
		④ 勝納ふ頭泊地において必要な水深を確保し、安全性・利便性の向上を図るためしゅんせつを行う。					
		⑤ 令和元年度 土砂 V=3845m <sup>3</sup> 令和2年度 土砂 V=433m <sup>3</sup>					
	3	① 港湾上屋改修事業(1527)		② 18,000 千円		③ 産業港湾部港湾室	
		④ 市営上屋の老朽化した建具(シャッター)や火災報知設備など緊急性のある設備について順次更新を行う。					
		⑤ 平成30年度 中央4号上屋 火災報知設備1式 令和元年度 高圧受電盤1面、高圧気中開閉器1台 令和2年度 上屋中央3号 シャッター2箇所、上屋中央4号 火災報知設備1式					
	4	① 若竹地区防波堤改良事業費(2971)		② 19,900 千円		③ 産業港湾部港湾室	
		④ 老朽化した防波堤の機能回復を図り、港内の静穏度を確保するため、若竹地区の防波堤の改良を行う。					
		⑤ 令和2年度 実施設計1式					
5	① 維持管理計画更新事業費(1105)		② 9,625 千円		③ 産業港湾部港湾室		
	④ 今後、施設の老朽化に伴い維持・更新費等の増大が懸念されることから、補修等の費用の最小化を図りつつ長期に渡って施設を有効活用するため、計画的な維持管理を行う。						
	⑤ 平成30年度 2施設、令和元年度 8施設、令和2年度 16施設						
6	①		② 千円		③		
	④						
	⑤						
指標推移の要因等	・老朽化した色内ふ頭や第3号ふ頭(予算事業等は(2)「みなと」観光拠点の創出に記載)の港湾施設の改良事業等を進めており、現時点では、基準値から増加していないものの、岸壁工事の完了をもって増加することとなるため、計画どおり進捗している。						
指標推移への対応	1	1:各事業をこのまま継続して推進する 2:予算事業等を改善しながら推進する 3:予算事業等の内容の全面的な見直しを行う					
対応の内容	<対応の内容を箇条書きで記入> 1 計画的な老朽化対策を推進し、港湾施設の機能回復及び延命化を図る。 2 第3号ふ頭及び周辺開発事業については、港湾施設の改良事業により施設の長寿命化が図られるほか、大型客船の接岸も可能となるため、関係機関と連携しながら事業の推進を図る。						

令和3年度 行政評価調書(小施策検討シート)

(4)石狩湾新港との連携

(第7次総合計画 基本計画 P.110)

指標	指標名		指標の基準年		基準値	目標値		
	両港のタグボート相互利用等のポートサービス連携により寄港した船舶の隻数		平成30年		89隻	基準値より増		
	年度ごとの実績値		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
			105隻	99隻				
指標推移	◎	◎ :指標の推移は順調 △ :指標の推移は順調でない - :判定不能(実績値なし)	指標推移は、基準年から目標年までに基準値から目標値まで平均的に増加(減少)させた場合の値を標準値とし、当該年度の実績値と標準値を比較して判定。 (目標値まで増加させる場合の例:実績値≥標準値⇒◎、実績値<標準値⇒△)					
主な取組	<p>○石狩湾新港管理組合への参画を通じた港湾施設の整備及び企業立地の推進による石狩湾新港地域の活性化(産業港湾部港湾室、産業港湾部産業振興課)</p> <p>○小樽港と石狩湾新港との相互連携による両港の利用促進(産業港湾部港湾室)</p>							
主な 予算事業等	① 名称(事業番号)		② 前年度決算(見込)額		③ 担当			
	④ 目的と概要							
	⑤ 事業等実施状況							
	1	① 石狩湾新港管理貴組合負担金(1081)		② 232,562 千円		③ 産業港湾部港湾室		
		④ 石狩湾新港を核とする広大な地域を最大限に活用し、地域産業、経済の活性化を図るため石狩湾新港管理組合に参画し、港湾の管理運営に必要な経費として母体負担を行っている。						
		⑤ 負担金 平成30年度 245,848千円 令和元年度 245,867千円 令和2年度 232,562千円						
	2	① タグボートの相互利用		② 予算なし 千円		③ 産業港湾部港湾室		
		④ 小樽港と石狩湾新港のタグボート相互利用等、ポートサービス連携による両港の利用促進						
		⑤ 石狩湾新港⇒小樽港 平成30年度 38隻 令和元年度 44隻 令和2年度 38隻 小樽港⇒石狩湾新港 平成30年度 51隻 令和元年度 61隻 令和2年度 61隻						
	3	①		② 千円		③		
		④						
		⑤						
	4	①		② 千円		③		
		④						
		⑤						
	5	①		② 千円		③		
		④						
		⑤						
	6	①		② 千円		③		
		④						
⑤								
指標推移の要因等	・新型コロナウイルス感染症の影響により、小樽港におけるクルーズ船寄港時のタグボートの利用はなかったものの、石狩湾新港ではLNG船やチャップ船、小樽港では穀物船による利用が堅調であった。							
指標推移への対応	1	1:各事業をこのまま継続して推進する 2:予算事業等を改善しながら推進する 3:予算事業等の内容の全面的な見直しを行う						
対応の内容	<対応の内容を簡潔書きで記入> 1 管理組合負担金については、今後も継続していく。 2 タグボートの相互連携については、二重投資を避け、効率的な両港の管理運営を実施するため、今後も継続していく。 (予算事業等は(1)物流の活性化に記載)							